

臨床実習における看護学生に対する ソーシャルサポート

— サポート源との対人関係について —

丹羽さよ子^{*}, 松元イソ子^{*}

要旨： 本研究では臨床実習における看護学生に対するソーシャルサポートとサポート源との対人関係との関係を検討した。サポート源を①臨床指導者を含めた看護婦②指導教員③受持患者と他の患者④看護学校の同級生を含めた友人、の4つに設定し、臨床実習における看護学生に対するソーシャルサポートと「学生がサポート源に好意的態度をどの程度示しているか」と「学生はサポート源からどの程度受容されていると認知しているか」について調査した。調査は、3年課程の看護学校の3年生を対象に、成人・精神・小児・母性看護実習期間中、新たな実習病棟での実習開始1週目125名に調査を実施した。その結果、看護学生は、サポートの送り手である他者から自己が受容されていると認知している場合、また、学生がサポートの送り手である他者に対して好意的な対人行動を示している場合に、その他者からのサポートの利用可能性が高まることが示唆された。

キーワード： ソーシャルサポート，臨床実習，看護学生，対人関係

近年、ソーシャルサポート (Social Support) はストレスに対する緩和効果や身体的・心理的健康との関連が注目されている。ソーシャルサポートの定義はこれまでに多くの研究者からなされている。久田²⁾によると、Cobb (1976) はソーシャルサポートを (1) ケアされ愛されている (2) 尊敬され価値があるとみなされている (3) 互いに義務を分け合うネットワークの一員である、と信じさせてくれる情報であると定義し、また、Kahn &

Antonucci (1980) は、社会的役割関係あるいはそれを超えて行われる援助的相互作用をソーシャルサポートとし、対人関係的な相互交渉であると定義した。

最近のソーシャルサポート研究の視点としては、ソーシャルサポートの効果はストレスの高低だけでなくその他の介在要因により異なるということに置かれている。その介在要因のひとつとして受け手のパーソナリティ特性がある。つまり、サポートの送り手が援助

* 鹿児島大学医療技術短期大学部看護学科

を意図して特定の行動を提供したとしても受け手がそれを「援助」として認知するとは限らない。この認知の個人差には自尊感情・統制感などの受け手のパーソナリティ特性が関連することを明らかにしている。もうひとつの介在要因としては、Kahnらがソーシャルサポートを対人関係的あるいは個人間の相互交渉であると定義しているように、受け手と送り手との関係のあり方の問題がある。これについては、親和欲求・ソーシャルスキル（社会的不安・自己開示・社会的コンピテンス）などの対人関係に関連したパーソナリティ特性とソーシャルサポートとの関係を検討した研究は多くみられている。しかし、受け手と送り手との関係のあり方を単に対人関係に関連したパーソナリティに関する変数という受け手の認知面だけから説明できるであろうか。確かにこれらのパーソナリティ特性は送り手との関係のあり方を予測し得る変数ではあるが、対人関係のあり方を基本的に決定づけるものは自己と他者それぞれがお互いにどのようなものとして理解し、相手に対してどのような態度を持つかであろう。このような観点から、ソーシャルサポートと受け手と送り手との関係を検討する必要があると考える。

臨床看護実習についての研究を概観すると、学生にとっていかにストレスの大きい学習場面であるかがわかるが、臨床実習を経験して成長したという報告も多い。また、学生にとって指導者がストレス源であると同時に、サポート源にもなり得ることが示唆されている。著者の研究においては、臨床実習における看護学生に対するソーシャルサポートが実習初期にはストレス・コーピング過程の認知的評価にポジティブな効果を与えることが明らかになっている（丹羽1996）。すなわち、臨床実習において看護学生が周囲の人間からより多くのサポートを得ることは、実習でのストレスを軽減し効果的な学習を促進するために重要であると考えている。そこで、本研究では

臨床実習における看護学生に対するソーシャルサポートについて、いかにすればより多くのサポートを得ることができるかをサポート源との対人関係のあり方に焦点をあてて検討する。

【被験者及び時期】

3年課程の看護学校の3年生を対象に、成人・精神・小児・母性看護実習期間中、新たな実習病棟での実習開始1週目125名に調査を実施した。

【調査用紙及び方法】

1. 臨床実習における看護学生に対するソーシャルサポート

著者（1995）が考案した調査項目を用いた。これは、臨床実習時に予想されるサポート源を①臨床指導者を含めた看護婦②指導教員③受持患者と他の患者④看護学校の同級生を含めた友人、の4つに設定し、因子的構造・尺度としての信頼性について検討し、構成概念上の妥当性及び内的整合性を確認した。

ソーシャルサポートの査定としてはいくつかのアプローチがあるが、ストレス・コーピング過程におけるソーシャルサポートの果たす役割という点を考慮して、学生自身に認知されたソーシャルサポートを測定した。すなわち、各調査項目が示している言動は各サポート源からどの程度期待できそうかという学生自身にとっての利用可能性の認知の程度を4件法（1. 非常にあてはまらない、2. ややあてはまらない、3. ややあてはまる、4. 非常にあてはまる）で評定させた。

2. 対人関係に関する調査用紙

好意や嫌悪の感情は二者の関係に大きな影響を与える。他者に好意などの肯定的な印象を持たれると良好な人間関係へと発展する可能性がある。また、他者からどのように認知されているかという自己の認知は他者への働きかけを規定する。そこで、「学生がサポー

ト源に好意的態度をどの程度示しているか」と「学生はサポート源からどの程度受容されていると認知しているか」という2つを学生とサポート源との関係のあり方を予測する指標として調査する。

「学生がサポート源に好意的態度をどの程度示しているか」の主な調査項目は瀬谷(1980)が大学生45名を対象に「自分の好意的感情を相手に伝えるには言葉や文字以外にどのような動作や仕草があるか¹²⁾」を調査した結果に基づいて作成した。また非言語的コミュニケーションの中で他者への関与・親和性・好意を示す働きがある視線を調査項目に加えた。視線には関心や好意を持つ者に対しては向ける視線が多くなることが確認されている(飯塚1991, 大森ら1995)。さらに視線には相手からの好意を誘発するという好意の相互性の媒体としての意味も認められている。「学生はサポート源からどの程度受容され

ていると認知しているか」の測定には梶田(1966)により作成された「知覚された受容の尺度」を使用した。この尺度は項目分析された5項目で構成されている。

これら2つの調査用紙は、各質問項目について4件法(1.非常にあてはまらない, 2.ややあてはまらない, 3.ややあてはまる, 4.非常にあてはまる)で評定させた。

【処 理】

4件法で回答を求めた項目について1点～4点の得点を与えて平均値を算出した。

【結 果】

1. 各サポート源からのサポートの程度(表1～表4)

臨床指導者を含めた看護婦をサポート源とした認知されたサポートの平均得点は2.628であり、指導教官をサポート源とした認知され

表1 認知されたサポート各項目平均得点(サポート源:臨床指導者を含めた看護婦)

項 目	平均	S D
「ナースに向いている」などと言います	1.592	.731
あなたの愚痴や不満を聞いてくれます	1.816	.817
「自分でできるようになったね」などとあなたの成長を認めてくれます	2.032	.924
あなたの体の具合を気にかけてくれます	2.152	.916
あなたの立てた看護計画を「それはいいね」などと認めてくれます	2.312	.884
あなたが自信がなくて不安がっているとき、自信を持たせようと助言します	2.336	.823
情報収集のしかたについて指導します	2.568	.836
受持患者の看護過程の展開(記録)と一緒に検討します	2.613	.890
ケアの準備を手伝ってくれます	2.664	.813
困ったことはないかと声をかけます	2.702	.754
ケアを患者に実施する前にそのやり方を指導します	2.784	.809
あなたが失敗したときその原因について助言します	2.831	.695
あなたの質問に対してあなた自身で解決できるようにヒントなどを与えます	2.928	.674
いろいろなことに参加させてくれます	2.96	.712
患者にどのように接したらよいか助言します	2.968	.695
あなたの立てた看護目標について助言します	2.984	.595
質問したらわかるまで教えます	3.008	.767
あなたの質問や援助の求めを受けてくれます	3.064	.578
ケアと一緒に実施しながら、そのやり方について指導します	3.072	.650
あなたの立てた看護計画について不十分な点を助言します	3.128	.660
全 体	2.628	.461

表2 認知されたサポート各項目平均得点（サポート源：指導教員）

項 目	平均	S D
ケアの準備を手伝ってくれます	2.208	.961
あなたが実習によって成長することを期待しているなどと言います	2.552	1.012
あなたの実施した看護活動をほめます	2.576	.918
看護婦への申し送りなど報告のしかたについて指導します	2.6	1.008
ケアを患者に実施する前にそのやり方を指導します	2.624	.913
受持患者についての情報を提供します	2.664	.975
ケアを一緒に実施しながら、そのやり方について指導します	2.712	.940
あなたが自信がなくて不安がっているとき、自信を持たせようと助言します	2.792	.910
あなたが何か決断するとき助けてくれます	2.792	.901
あなたの体の具合を気にかけてくれます	2.896	.956
あなたの相談相手になってくれます	2.92	.989
情報収集のしかたについて指導します	2.928	.844
実習病棟についてオリエンテーションを実施します	3.08	.930
患者にどのように接したらよいか助言します	3.112	.721
実習の様子を見に来ます	3.144	.790
計画の実施後のアセスメントが適切かどうか助言します	3.272	.614
実習記録やレポート（提出物など）の書き方について指導します	3.272	.766
あなたの質問に対してあなた自身で解決できるようにヒントなどを与えます	3.272	.614
受持患者の看護過程の展開（記録）を一緒に検討します	3.288	.781
あなたの立てた看護目標について助言します	3.328	.693
質問したらわかるまで教えます	3.336	.634
あなたの立てた看護計画について不十分な点を助言します	3.416	.674
全 体	2.945	.575

表3 認知されたサポート各項目平均得点（サポート源：受持患者や他の患者）

項 目	平均	S D
あなたに「ありがとう」などと感謝します	3.282	.681
あなたを信頼しているなどと言います	2.704	.833
「実習が終わっても遊びに来てね」などと言います	3.032	.806
あなたとよく会話をします	3.25	.717
清拭など、してほしいケアを要望します	2.863	.790
あなたの個人的なことに関心を示します	2.742	.795
あなたが質問すると答えてくれます	3.331	.695
「あなたがいてくれて良かった」などとあなたの存在を認めてくれます	2.976	.850
「がんばってね」などと励ましの言葉をかけます	3.242	.758
全 体	3.047	.591

表4 認知されたサポート各項目平均得点（サポート源：看護学校の同級生を含めた友人）

項目	平均	S D
あなたの欠点を指摘します	2.752	.769
あなたについて他人がどう言っているかを教えます	2.832	.922
申し送りなどの報告の仕方について助言します	2.968	.888
一緒にあなたの受持患者の看護過程の展開（記録）を検討します	3.032	.813
必要なときにお金や物を貸します	3.08	.848
ケアの後かたづけを手伝ってくれます	3.224	.739
ケアを実施するとき手伝ってくれます	3.32	.691
忙しいときに手伝ってくれます	3.36	.700
あなたの体の具合を気にかけてくれます	3.376	.692
あなたの気持ちや立場を分かってくれます	3.432	.627
ともに考えたり悩んでくれます	3.44	.614
「大変だね」などとねぎらいの言葉をかけます	3.448	.602
わからないことを聞くと教えます	3.48	.630
あなたが失敗したとき慰めてくれます	3.488	.617
落ち込んでいると慰めてくれます	3.496	.655
「一緒にがんばろう」などと励ましの言葉をかけます	3.568	.558
愚痴や不満を聞いてくれます	3.584	.571
嬉しいことがあると一緒に喜びます	3.656	.510
おしゃべりなどをして楽しい時を過ごします	3.677	.519
声をよくかけます	3.68	.517
全 体	3.346	.454

たサポートの平均得点は2.945であった。受持患者や他の患者をサポート源とした認知されたサポートの平均得点は3.047であり、看護学校の同級生を含めた友人をサポート源とした認知されたサポートの平均得点は3.346であった。

2. 認知されたソーシャルサポートと対人関係との関係

各サポート源に対する知覚された受容度と好意的対人行動についての結果は表5～表12に示した通りである。

次に、認知されたソーシャルサポートが対人関係に関する変数（知覚された受容度、好意的対人行動）にどのように影響を受けているかを検討するために、各サポート源別の認知されたサポートそれぞれを目的変数とし、知覚された受容度及び好意的対人行動を説明

変数とした重回帰分析を行った（表13）。その結果、「臨床指導者を含めた看護婦」からのサポートは知覚された受容度、好意的対人行動との間に有意な正の相関がみられた（ $p < .001$, $p < .01$ ）。重相関計数は.496（ $p < .001$ ）であった。「指導教員」からのサポートは知覚された受容度、好意的対人行動との間に有意な正の相関がみられた（ $p < .001$, $p < .05$ ）。重相関計数は.611（ $p < .001$ ）であった。「受持患者や他の患者」からのサポートは知覚された受容度、好意的対人行動との間に有意な正の相関がみられた（ $p < .001$, $p < .01$ ）。重相関計数は.755（ $p < .001$ ）であった。「看護学校の同級生を含めた友人」からのサポートは知覚された受容度、好意的対人行動との間に有意な正の相関がみられた（ $p < .01$, $p < .001$ ）。重相関計数は.553（ $p < .001$ ）であった。

表5 好意的対人行動 —サポート源：臨床指導者を含めた看護婦—

項 目	平均	S D
1. 会えばほほ笑みかける	2.424	.816
2. 姿を見たら声をかける	2.176	.794
3. 大変そうな時などに手伝う	2.720	.747
4. 個人的なことや悩みごとを相談する	1.408	.649
5. 視線をそらす	2.984	.813
6. 質問をしたり自分の考えていることを話す	2.616	.727
全 体	2.388	.425

表6 知覚された受容度 —サポート源：臨床指導者を含めた看護婦—

項 目	平均	S D
1. あなたの考えに賛成しているようだ	2.296	.609
2. あなたの考えを重要なものと感じているようだ	2.224	.646
3. あなたの考えを認めてくれているようだ	2.360	.627
4. あなたの考えに興味をもっているようだ	2.160	.700
5. あなたに対して暖かい態度で接しているようだ	2.688	.717
全 体	2.346	.513

表7 好意的対人行動 —サポート源：指導教員—

項 目	平均	S D
1. 会えばほほ笑みかける	3.128	.772
2. 姿を見たら声をかける	2.976	.767
3. 個人的なことや悩みごとを相談する	2.464	1.020
4. 視線をそらす	3.336	.761
5. 質問をしたり自分の考えていることを話す	2.992	.724
全 体	2.976	.577

表8 知覚された受容度 —サポート源：指導教員—

項 目	平均	S D
1. あなたの考えに賛成しているようだ	2.576	.626
2. あなたの考えを重要なものと感じているようだ	2.664	.621
3. あなたの考えを認めてくれているようだ	2.776	.594
4. あなたの考えに興味をもっているようだ	2.608	.706
5. あなたに対して暖かい態度で接しているようだ	3.072	.674
全 体	2.739	.523

表9 好意的対人行動 —サポート源：受持患者や他の患者—

項 目	平均	S D
1. 会えばほほ笑みかける	3.632	.561
2. 姿を見たら声をかける	3.568	.573
3. 個人的なことや悩みごとを相談する	1.832	.820
4. 視線をそらす	3.592	.784
5. 大変そうな時などに援助する	3.435	.641
6. 頼まれ事を責任をもって引き受ける	3.480	.630
7. 相手のためにできることを捜して実施する	3.424	.651
全 体	3.290	.398

表10 知覚された受容度 —サポート源：受持患者や他の患者—

項 目	平均	S D
1. あなたの考えに賛成しているようだ	2.896	.565
2. あなたの考えを重要なものと感じているようだ	2.800	.707
3. あなたの考えを認めてくれているようだ	2.904	.665
4. あなたの考えに興味をもっているようだ	2.800	.707
5. あなたに対して暖かい態度で接しているようだ	3.248	.703
全 体	2.930	.548

表11 好意的対人行動 —サポート源：看護学校の同級生を含めた友人—

項 目	平均	S D
1. 会えばほほ笑みかける	3.685	.500
2. 姿を見たら声をかける	3.589	.612
3. 大変そうな時などに手伝う	3.597	.555
4. 個人的なことや悩みごとを話す	3.387	.762
5. 視線をそらす	3.282	1.009
6. 一緒に食事をしたり遊んだりする	3.573	.587
7. 相手をほめる	3.403	.597
8. 贈り物をする	2.863	.800
全 体	3.422	.449

表12 知覚された受容度 —サポート源：看護学校の同級生を含めた友人—

項 目	平均	S D
1. あなたの考えに賛成しているようだ	2.952	.491
2. あなたの考えを重要なものと感じているようだ	2.919	.564
3. あなたの考えを認めてくれているようだ	3.040	.484
4. あなたの考えに興味をもっているようだ	2.894	.555
5. あなたに対して暖かい態度で接しているようだ	3.407	.541
全 体	3.042	.413

表13 対人関係とソーシャルサポートの関係

サポート源	臨床指導者を含めた看護婦	指導教員	受持患者や他の患者	看護学校の同級生を含めた友人
知覚された受容度	.336***	.467***	.594***	.311**
好意的対人行動	.267***	.207*	.239**	.314***
重相関係数	.496***	.611***	.755***	.553***

* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

【考 察】

すべてのサポート源について、認知されたサポートは知覚された受容度及び好意的対人行動と正の相関がみられた。すなわち、看護学生が、サポートの送り手である他者から自己が受容されていると認知しているほど、また、サポートの送り手である他者に好意的な態度を示すことが多いほど、その他者からのサポートの利用可能性の認知が高まることが示唆された。

Vinokur¹⁹⁾は、サポートの利用可能性の認知を最も強く規定するのは受け手のパーソナリティ特性よりも他者が実際に提供したサポートの程度であるとしている。好意的対人行動に関していえば、この調査項目には「質問したり自分の考えていることを話す」「個人的なことや悩みごとを相談する」という自己開示に関する項目が入っている。自己開示の内容とサポートとの関係については、悩みごとを開示することによって具体的なサポートをより多く得ているという報告がある（渡邊1994）。さらに、自己開示の機能である「返報性」は、自己開示された人が同じ程度の深さあるいは量の自己開示を開示者に返すという現象であり、親密化の過程の要因でもある。また、この調査項目には、「会えばほほ笑みかける」及び逆転項目としての「視線をそらす」という非言語的コミュニケーションに関する項目も入っている。「視線」は表

情など他の情報を加味して相手からの好意を誘発するという好意の相互性の媒体としての意味が認められており、これも親密化を促進する要因である。親密なムードはより多くの援助を生起させることが認められている。このように、本研究で用いた「好意的対人行動」の調査項目には、その行動を示された他者からより多くのサポート行動を引き出す要因が多く含まれていることがわかる。すなわち、サポートの送り手である他者に好意的な態度を示すことが多いほど、その他者からより多くのサポート行動を実際に引き出す結果となり、このことがその他者からのサポートの利用の可能性を高める結果につながったと考える。

次に、他者に対してどのような態度を持つかは基本的にはその他者からどのように認知されているかという自己の認知の影響を受ける。したがって、知覚された受容度と好意的対人行動は、それぞれが単独で機能しているのではなく、相手に受容されているという認知が、好意的な態度や行動のバックグラウンドとして機能していると考えの方が妥当であろう。これについては、表14に示すように知覚された受容度と好意的対人行動との間に、正の相関関係があることから推測できる。

以上のことから、より多くのサポートの利用可能性を認知するには、送り手である他者に自分が受容されていると思えることがまず

表14 知覚された受容度と好意的対人行動との関係

サポート源	相関係数
臨床指導者を含めた看護婦	.3614**
指導教員	.5783**
受持患者と他の患者	.5674**
看護学校の同級生を含めた友人	.5666**

** p < .01

重要であることが推測されたが、自分が他者から受容されているという認知は、その他者が自分に示す態度を少なからず反映したものと考えられる。つまり、自己と他者それぞれが相手に対してどのような態度をとるか、という相互関係の量と質がサポートの利用可能性の認知の程度を左右することになるといえる。

浦¹⁵⁾は、人が役割の安定感を失いアイデンティティを拡散してしまったような場合や古くからの価値観を守り決められた役割をきちんと遂行することを求められるような場合には、相互関係の高い人間関係が人に安定感を与えてアイデンティティを確認させる役割を演じるので、心身の安寧に有効であるとしている。臨床看護実習は学生にとって、まさに職業人としての新たなアイデンティティを求められる場面であり、看護婦の役割をきちんと遂行することを求められる現実場面でもある。そこで、このような場面において、看護学生自身が能動的かつ積極的にサポートの送り手である他者との人間関係をつくろうと努力することは非常に重要であると考え。それと同時に、学生をサポートする我々も能動的かつ積極的に学生との良好な人間関係をつくろうと努力することが非常に重要であろう。

【まとめ】

看護学生が、サポートの送り手である他者から受容されていると認知しているほど、ま

た、サポートの送り手である他者に好意的な態度を示すことが多いほど、その他者からのサポートの利用可能性の認知が高まることがわかった。さらに、相手に受容されているという認知は、好意的な態度や行動のバックグラウンドとして機能しているということが推測され、臨床実習における看護学生に対するソーシャルサポートは、学生とサポートの送り手との相互関係のあり方の影響を受けることが示唆された。

文 献

- 1) 安藤清志：対人関係における自己開示の機能，東京女子大学紀要，36，167-199，1986.
- 2) 久田 満：ソーシャル・サポート研究の動向と今後の課題．看護研究，20，2，2-11，1987.
- 3) 飯塚雄一：視線と感情表出の関係について．実験社会心理学研究，31，2，147-154，1991.
- 4) 稲葉昭英，浦 光博 他：「ソーシャル・サポート」研究の現状と課題．哲学，85，1987.
- 5) 梶田毅一：2者関係に及ぼす自己評価の効果．教育・社会心理学研究，5，2，137-144，1966.
- 6) 丹羽さよ子 島田俊秀：看護学生の態度形成に関する研究（I）－看護学生を対象としたソーシャルサポート測定に関する

- る尺度の構成一，九州心理学会第56回大会発表論文集，61，1995.
- 7) 丹羽さよ子：臨床実習における看護学生のソーシャルサポートと認知的評価との関係。九州心理学会第57回大会発表論文集，1996.
 - 8) 大坊郁夫，安藤清志 他：社会心理学パースペクティブー個人から他者へー。誠信書房，1989.
 - 9) 大森慈子 宮田 洋：対人感情と目の行動。日本心理学会第59回大会発表論文集，177，1995.
 - 10) 斎藤 勇（編）：対人魅力と対人欲求の心理 第1章 対人魅力と対人好悪。対人社会心理学重要研究集2 誠信書房，1987.
 - 11) 佐藤健二，浅井邦二 他：自己開示とソーシャルサポートの関連。日本心理学会第59回大会発表論文集，188，1995.
 - 12) 瀬谷正敏：好意的感情の非言語的表現。サイコロジー，9，38-43，1980.
 - 13) 対人行動学研究会編：対人行動の心理学 第Ⅱ部対人行動のプロセス 79-246，誠信書房.
 - 14) 浦 光博，南 隆男 他：ソーシャル・サポート研究ー研究の新しい流れと将来の展望ー。社会心理学研究，4，2，78-90，1989.
 - 15) 浦 光博：支えあう人と人ーソーシャル・サポートの社会心理学ー，サイエンス社，1992.
 - 16) Vinokur, A. Schul, Y. et al. : Determinants of Perceived Social Support : Interpersonal Transactions, Personal Outlook, and Transient Affective States. Journal of Personality and Social Psychology, 53, 6, 1137-1145, 1987.
 - 17) 渡邊暁子：悩みの開示の規定因についてーパーソナリティーとの関連ー。日本教育心理学会第36回総会発表論文集，323，1994.
 - 18) 吉田敦也，蓮花一己 他（編）：行動科学ハンドブック 第10章対人行動。福村出版，1989.

The Effect of Interpersonal-Relations on Social Support in the Clinical Training of Nursing Students

Sayoko Niwa, Isoko Matsumoto

Department of Nursing, School of Allied Medical Sciences, Kagoshima University.

Abstract : The purpose of this study was to examine the effect of interpersonal-relations on social support in the clinical training of nursing students. Interpersonal-relations were measured by friendly interpersonal behavior and perception of acceptance. The investigation was administered to 125 nursing students in the first week in a period of three weeks of clinical training. Associations between social support, friendly interpersonal behavior and perception of acceptance were analysed using linear multiple regression.

The result obtained was as follows :

Social support was significantly correlated with friendly interpersonal behavior and perception of acceptance.

Key words : social support, Interpersonal-relations, clinical training, nursing students